

県立大学の設置の是非を検討するための有識者会議 報告書構成案 整理表

1 必要性

(1) 学びの選択肢拡大

- 大学進学率は高まっていることから、県の一定の関与は求められる。
- 教育機会の提供という公共の利益、市場の原理では足りない部分を補うことが、地方公共団体の意義であると考えられる。
- 三重県の大学進学者収容力は低水準である。
- 三重県は東海圏・関西圏にも出ていきやすい立地的な事情がある。
- 県立大学の設置目的によって必要性は変わる。
- 魅力ある突出した大学は、全国から志願者が集まり、結果として県内入学率下がる。
- 公立大学であれば、定員割れのリスクより県民が入学できないリスクが大きいのではないかと。
- 大都市圏の大学と交換する制度をつくって、大都市圏の学生と三重県の学生双方にとって意義となるよう設計する。
- 県内の既存大学周辺に学生寮を整備した方が良いという考えもありうる。

(2) 若者の県内定着

- 18歳人口の減少により、都市圏に若者が集中する若者の偏在化がより顕著になるため、地域の若者が進学できる大学の必要性はある。
- 地域の若者や企業を支える大学が必要であれば、少子化の中でもつくる意味がある。
- 大学があれば、街全体を活気づかせるだけでなく、企業活動の活性化につながり、若者が活躍する場が県内に増える。
- 既存の県内高等教育機関だけでは十分に満たさきれていないニーズを満たすことができれば、三重県のこれからの支えてくれる生徒が、県内で学び、県内企業に就職してくれると期待できる。
- 大学在学中に、地域の魅力に触れ、地域と強い繋がりを持ち、県内企業と共同研究することなどにより、卒業後の県内就職につながる効果はある。

(3) 高校生等のニーズ

- 調査結果では、高校生、保護者とも県内公立大学を「進学先の候補として考える」を選んだ割合は多い。
- 調査結果から一定ニーズが読み取れ、地元を受け皿がないため、大学をつくるべきが議論を進めるのはよい。
- 県内で自分の希望が満たせず、県外に転出する生徒がいることが読み取れる。
- 全国的に見て国公立のニーズは高い。
- 工学系等を希望する生徒が進学できる大学が少ない。

(4) 経済的負担

- 国公立大学は学費が低く抑えられており経済面の負担が少ない。
- 大都市圏と三重県内では経済的負担はかなり異なる。
- 調査結果から県内公立大学を進学先として考える理由は、「学費は安いイメージ」、「自宅から通える」が上位にある。
- コロナ禍で、親の経済状況の悪化により学費を工面する力が弱くなっている。

2 有効性

(1) 人材育成・人材供給

- アメリカの州立大学の事例では手厚い教育により人材を育成し、地元企業に人材を供給する役割を果たしている。
- 県内に残る穏やかな学生では、企業の中核を担える人材が少ない。
- 県外出身の学生であっても、県内で育ち、県内企業に就職してもらえる大学であってほしい。
- 県の産業界からは、共同研究や人材供給、リカレント教育や事業承継、一次産業の大規模化をしていくための人材育成が求められている。
- 県が育成するのであれば、産業を新しく興すような、県が必要とする人材ではないかという考え方もある。
- 企業と学生が接点を持つことは、企業にとって刺激があるだけでなく、学生にとっても就職してからの自信につながる。
- 大学には、社会と学生をつなげる意義がある。
- 大学が提供するカリキュラムを他の大学の学生や社会人が受講でき、大学院生として受け入れてくれるような大学であれば、さらに地域が活性化すると考えられる。

(2) 地域課題解決

- 三重県というフィールドを、教育の場、社会の最先端の課題を解決するリアルなフィールドとする。
- 地元性を生かし、さらに突出した大学とするには、実践の場での学びが必要である。地三重県の地域課題の解決は、日本の課題解決に繋がるかもしれない。
- 産学連携の中で高校もつながるように、地域内で研究の成果が還元する教育の仕組みなどがあれば良い。

(3) 県内高等教育機関や地域等への波及効果

- 県立大学ができたことで、周辺の私立大学にも良い影響があり、その大学に行けなかった生徒にとっても良い効果があると意味がある。
- 地元の他の大学やその学生、地域の高校生や企業に対しても広くプラスの影響を与えることができるのなら、県立大学をつくる意義はある。
- 地域にフォーカスした学修や研究、企業連携のほか、地域の他の大学への進学理解にも繋がるような探究学習の提供や、他大学と連携した地域の経済活動に資する授業の開講など、さまざまな方法が考えられる。

(4) シンクタンク機能

- 県の政策を考えていくシンクタンク的な役割を担う。
- 政策提言を行うシンクタンク機能を持つ。

3 あるべき姿

(1) 学生・県民への意義

- 学生のための大学、学生の将来のためになる大学であれば、つくる意義がある。
- 大学が持つ哲学を明確にし、これを県民の皆さんと共有して、実行するのであれば、県内高校生の受け皿になるだけでなく、県外の学生にとっても魅力となり、県に定着してもらえる。
- 独自性のある教育内容（教育活動）も盛り込み、特色化を図る必要がある。
- 大学のこれからの在り方を踏まえた新しい構想の大学というものを考える必要がある。
- これからの新しい大学像を見据え、これからの教育を引っ張っていくという覚悟を持つ必要がある。

(2) 地元企業等との連携

- 既存の産業とどう連携していくのか考える必要がある。
- 地元企業の社長を教授として迎えるなど、地域を巻き込んださまざまな方法が考えられる。
- 本質的な課題は、県立大学を設置しても就職時に学生が県外へ流出してしまう可能性があることである。そのため、学生と地元企業との結びつきを高める必要がある。
- 地元の産業界や団体も巻き込み、協力を仰ぐ。
- インターンシップの受入れ見込みや研究面での産学連携の可能性など、地元企業との連携方法や、設置後の県のサポートも含め、綿密に考えておく必要がある。

(3) 実践的な教育

- 全学共通科目で、地元企業を招いて学生にディスカッションさせる「社会体験ワークショップ」を行う。
- 自分から主体的に動ける学生を地元にとどめるため、学生と地元企業が接する機会を創出し、アクティブラーニング系の授業を体験させることが有効である。
- やる気と主体性、行動力がある学生を育成するために、アクティブラーニングのような参加型の授業をなるべく多く取り入れる。
- 多様な人が集まり、それらの人々をかき混ぜる場とする。

(4) 地元枠

- 一定の地域枠を作るという方法もある。
- 地域枠で入学した学生が、地域に戻り活躍しているという現実もある。地域枠の必要性を検討することは良い。

4 その他留意事項

(1) 議会

- 議会への説明責任を果たし、成果を示すことが重要である。

(2) 費用負担

- 事前に費用対効果をどの程度見込むのかを十分に検討しておく必要がある。

(3) 規模の経済

- 規模の経済を働かせることができるのかという検討も必要である。

(4) 立地

- 三重県は南北に長いことから学生が通学しやすく、かつ高等教育機関がないために進学を諦めているような高校生たちにとって、メリットになる設置場所の検討が重要である。

(5) 教職員

- 大学を維持していく職員をどうするかをよく考えておくべきである。
- オンライン授業が可能であれば、良い教員を集めることが可能である。

(6) オンライン

- オンラインにはいろいろな教授の講義が聞けるという利点がある。